

平成 2 5 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	6 6	学校名	牛久栄進高等学校				課程	全日制		学校長名	枝川 久					
副校長名	飯田 清		教頭名	川口 浩己						主査兼事務長名	駒場 一吉					
教職員数	教諭	6 2	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	2	実習講師	1	事務職員	4	技術職員等	4	計	8 1
生徒数	小学科	1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	144	176	139	175	151	162	—	—	434	513	2 4				

2 目指す学校像

情報化・国際化・高齢化等激しく変化する社会にあって、それらに柔軟に対応できる力を育むと同時に、豊かな人間的資質を培い、自主自律の態度を養い、進取の気概あふれる創造性豊かな青年を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
教科指導	単位制の特長を活かし、多様な選択科目の講座を開講するとともに、「少人数指導」「TT授業」も数多く実施している。「55分授業」により、「1分を大事にする授業」の意識も浸透してきている。また年次・教科それぞれが、指導の工夫・改善に取り組んでいる。	さらなる授業のレベルアップをめざして、授業内容・教授法に関する研究・研修をさらに進める必要がある。具体的には、公開授業や研究協議、授業研修の報告会を開催する等、校内外での職員研修を如何に充実させていくか。
特別活動	生徒の学校行事への取組みは積極的であるが、生徒会や委員会活動へ取り組む意欲はまだ十分とは言い難い。部活動も全国大会や関東大会出場に目標を置き、活発に行われている。	生徒会・常置委員会、部活動の存在意義とその必要性について理解を深めさせ、生徒の自己管理能力を高めるとともに、「考えて行動する力」の育成を如何に図っていくか。
生徒指導	ほとんどの生徒は素直でまじめな生活態度であるが、規範意識の希薄な生徒も一部に見られるとともに、教育相談等を必要とする生徒が増えている。また、交通事故、不審者遭遇等の発生件数が増加傾向にあり、さらに徹底した安全教育が必要である。	生徒の規範意識を如何に向上させるか。問題を抱える生徒の早期発見及び保護者・関係機関との連携を如何に効果的に図っていくか。生徒に自らの安全を守る意識とスキルを如何に身につけさせるか。
進路指導	全員が進学希望であり、より高い進路目標の実現に向けてきめ細かな指導を行っている。25年春は、国公立大学現役合格者102名、私立大597名の実績をあげた。	進路実現に向けて、これまでの取り組みの良い点を継承しつつ、新たな工夫を加え、国公立大学現役100名以上の合格を如何にして継続し、さらに質的向上を図るか。

4 中期的目標

1 『活力ある進学校』 一人一人の個性と創造性を最大限に伸ばす、『活力ある進学校』を目指す。
2 『個に応じた学習指導』 「自分で作る時間割」を通して、個に応じた、より深い探求学習を展開する。
3 『自主独立の人づくり』 単位制のシステムを生かして、自分の未来を自分自身で拓く、『自主独立の人づくり』を目指す。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教科指導 －授業は真剣勝負－	① 単位制の特長を生かし、多様な選択科目を設定し、少人数講座・習熟度別学習・チームティーチングなどに積極的に取り組む。 ② 基礎・基本の定着を重視し、さらに多様な大学入試（新教育課程の入試も含めて）に对应できる力が身につく授業を実践する。 ③ 教員一人一人の授業レベルアップを図るために、公開授業・研究協議や授業力向上セミナーの報告会等を実施し、授業に関する研修を充実させる。
特別活動 －部活動や生徒会活動の意義－	④ 部活動を通して、感性を高め、心身を鍛錬するとともに、友人との健全かつ豊かな人間関係を構築させる。 ⑤ 学校行事を通して、達成感・成就感を体得させるとともに、生徒間、各HR・年次間及び学校全体の連帯感を培う。 ⑥ 生徒会活動・委員会活動・HR活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりを画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。 ⑦ 国際交流事業を通じて、生徒の視野の拡大、国際理解教育の推進に努める。
生徒指導 －社会的責任を自覚し行動できる生徒の育成－	⑧ 全職員の共通理解のもとに、あらゆる機会を通じて規範意識の醸成及び向上を促す。 ⑨ 個別面談・教育相談を充実させ、生徒の悩みや課題の解決に向け支援する体制を整え、関係機関との連携強化を図る。 ⑩ ネット下校指導や危険箇所の情報提供を確実に実施するとともに、不審者、ネット犯罪等を対象とする安全教育を推進し、生徒の危機察知能力及び危機回避能力を育成し、事故の未然防止に努める。 ⑪ ホームルーム活動や学校行事を通して、自他の生命を尊重する精神を養う。
進路指導 －生徒一人ひとりの特性を生かした指導－	⑫ 生徒が進学を希望する公立大学・私立大学の説明会等を通して、生徒にとって有益な情報を積極的に収集し、生徒に提供する。 ⑬ 「特色ある学校づくり支援事業」の一環としてさまざまな機関との連携を図るとともに、個々の生徒の特性を生かすキャリア教育の充実に努め、進路実現に向けて、多面的な大学入試への対応を促進する。 ⑭ 生徒が必ず必要とする参考図書等を精選して購入し、生徒による図書の活用を促進する。
保護者及び地域社会との連携 －積極的な情報発信－	⑮ 教育活動や学校行事等について細かく保護者に伝達し、常に保護者と教職員が手や生徒の教育にあたる体制を継続していく。 ⑯ HPや各種印刷物等を通じて、保護者・地域社会に対し、教育目標・教育活動等の情報をさらに積極的に発信していく。